

登下校時の誘導の手引き

かならず とまって

みぎ・ひだり・みぎ



秦野市地域安全課

1 はじめに

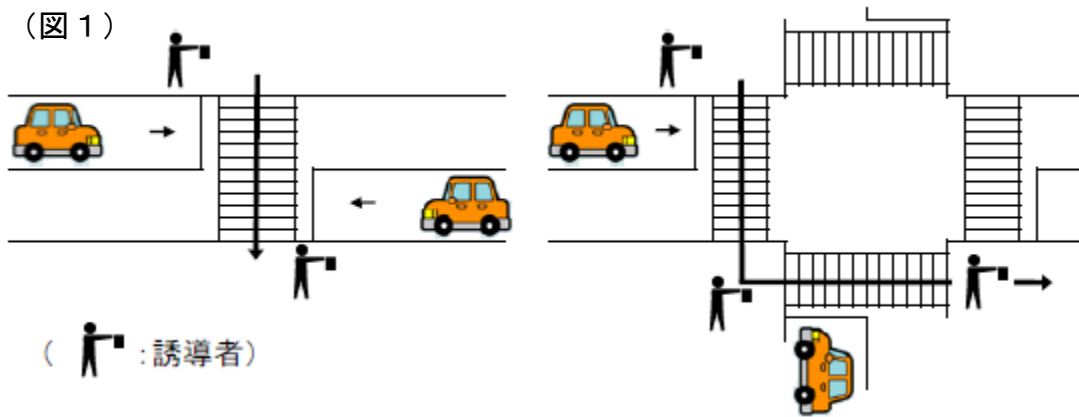
日頃から、児童等の登下校時の安全な通行のため、横断時の誘導にご協力いただき、誠にありがとうございます。

皆様の活動の参考に「登下校時の誘導の手引き」を作成しましたので、児童と皆様の安全を守るために、ご活用いただきたいと思います。

2 誘導者の立つ位置

立つ位置は、道路環境によって異なりますが(図1)の示すところがよいでしょう。

看板や電柱の陰は避けて自動車からよく見える場所に立ちましょう。ただし、道路には出ないようにしましょう。



3 横断旗の使い方

(1) 児童を待たせる時は旗を地面と水平に持ち、児童が横断したり飛び出したり出来ないようにしておきます。(図2) また、歩道のギリギリの所で待っていたら「ちょっと、下がって待とうね。」と声をかけて下さい。



(2) 児童が集まったら、左右の安全を確認し、旗を突然に出さず一度大きく右 45 度の頭上に上げ、運転者に対し合図を行います。(図3)

同時に左手は、手の平を児童に向けて、飛びださないようにふせぎます。

この時、自動車を無理に止めることは危険です。



- (3) 自動車が完全に止まったら、左右の安全をもう一度確認した後、旗を横断歩道に水平に出し児童を誘導します。(図4)

この時、止まっている自動車の脇を通り抜けてくるバイクや自転車にも注意しましょう。

横断するときには、児童に手を上げさせるように、また、登校班の班長さんには、横断旗をしっかりと掲出するように指導をお願いします。

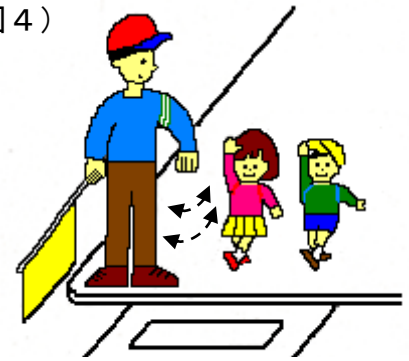
- (4) 児童が向かい側の歩道に渡りきったのを確認したら、左手で横断歩道をふさぎ、後からくる児童を止めます。そして(図2)と同じ様に、旗を一度頭上に上げてから元にもどします。(図5)

旗を一度上げてからもどすなど、動作を2回に分けると、運転者にもわかりやすく効果的です。

- (5) 最後に、運転手さんに対してお辞儀をして、協力に感謝しましょう。(図6)

マナーと思いやりと感謝の気持ちを子ども達が学ぶ良い機会です。

(図4)



(図5)



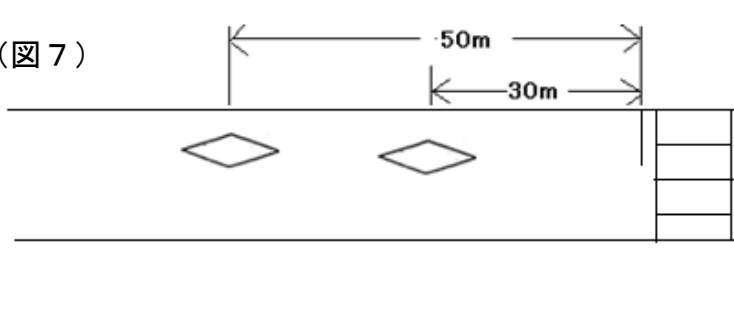
(図6)



4 横断旗を出すタイミング

自動車の切れ目をとらえ、安全に停止するために十分な距離があることを確認します。自動車が停止するには時速40kmで22m、時速60kmで44mの距離が必要とされています。あらかじめ目標距離(目標物)を決めておくといいでしょう。ちなみに、横断歩道手前のひし形予告表示の間隔は、横断歩道から近い側が30m、遠い側が50mに標示されています。(図7) また、電柱の間隔は30m前後です。

(図7)



5 注意すること

(1) あわてず、大きく、はっきりと

児童が横断中に自動車が並んでしまったり、児童の横断を止めているときに児童がたまってしまっても、あわてずに行動しましょう。児童の安全が第一です。

また、あいまいな動作はかえって危険です。自信と決断で、わかりやすく、大きく、はっきりと、早めに行いましょう。

(2) 呼吸を合わせて

二人ひと組で行う場合は、児童が待っている側が主導権を持ち、旗を動かすときは声で合図する等して呼吸を合わせましょう。

(3) 自分の身も守る

車道には出ないことが原則です。やむを得ず車道に出る場合は、止まっている自動車の脇を通り抜けてくるバイク、自転車に十分注意しましょう。

また、目立つ色の服装や、反射材を活用し、靴は動きやすいものがよいでしょう。雨のときは傘ではなく、レインコートを着用しましょう。

(4) 自動車に指示をしない

横断旗には自動車を止める強制力はありません。また、運転手に発進の指示をすることもやめましょう。

朝の出勤時間は運転手にとっても貴重な時間です。協力をしてくれた運転手に対しては、会釈する等の感謝の気持ちを伝えましょう。

(5) 信号に従う

信号のある横断歩道では信号に従ってください。

青の点滅信号(黄色信号)で児童を横断させてはいけません。児童が横断し終わったら、すみやかに旗を元にもどします。

(6) 大型車は止めない

大型車を止めてしまうと、後ろの車の運転手が前方を確認できずに衝突したり、横断中の児童に気がつかずに大型車を追越して事故につながる可能性がありますので、大型車を止めることは避けましょう。

